

研究代表者 所属・職：健康科学部・准教授

氏 名：宮田 美和子

研究課題名：地域包括ケアシステムの推進を目指した「親子ふくし教室」の取り組み

研究の目的

- 地域包括ケアシステムの推進には行政サービスのみならず，近隣住民の協力態勢の強化や福祉・医療を担う次世代の育成の視点が必要である。
- 本研究の目的は「親子ふくし教室」を開催することで，参加親子や企画に携わった本学の学生が，地域の理解を深めて自らが地域に働きかける存在となり，地域包括ケアシステムの人財を育成していくことである。

プロジェクト目標の達成状況・成果内容

- 年間 5 回の予定で「親子ふくし教室」を企画した。各回の内容と参加状況は以下のとおりである。

第 1 回 「福祉用具って何だろう？」参加者 4 組 9 名，大学生(企画運営)5 名

第 2 回 「手先を使ってリハビリテーション！陶芸療法体験講座」参加者 4 組 9 名，大学生 0 名

第 3 回 「私たちの暮らす街を探検しよう！①」参加者 1 組 2 名，大学生 8 名

第 4 回 「私たちの暮らす街を探検しよう！②」参加者 4 組 10 名，大学生 8 名

第 5 回 「私たちの暮らす街を探検しよう！③」参加者 0 組，大学生(企画)6 名

- 参加後のアンケート結果では，全企画ともに内容を楽しめたと好評であった。また第 3～5 回を同テーマにして，企画に携わる学生を固定したことにより，学生が亀崎の街や住民と触れ合う機会が増え，街への愛着が増した様子が伺えた。

優れた成果があがった点

- 全 5 回の企画の中で集客数に関する課題は残ったが，参加した親子のリピーター率が高かったことは，企画内容自体は十分に楽しみながら「ふくし：ふだんのくらしのしあわせ」学べる内容

となっており，「ふくし」への関心を高めるきっかけとなったと考える。

また企画に携わった学生からは，「街を歩いているといろんな方から声をかけてもらえてありがたい」「亀崎の人の温かさを知った」「古い町並みや美しい景色が亀崎にはたくさんある」「以前よりも亀崎への愛着が湧いた」などの感想が多く得られた。さらに，企画に携わった 4 年生の中には地域活動に携わる職で内定を得た者もあり，地域包括ケアシステムについての関心が高まった成果の一部と考える。

研究期間終了後の今後の展望

- 今回、健康科学部の立地する半田市の中で企画を行ったが，既に様々な活動団体が企画を行っており，開催日の重複を避けるなど日程調整や集客に関する課題が残った。

- 今後の展望として，既存の活動団体の企画にコラボレーションするなどの開催方法の工夫が必要と考える。